

桂林市中医病院から

こんにちは！ No.3



今回は『北京からこんにちは！』。北京は2008年のオリンピック・パラリンピックに向けて、24時間体制で工事が進められている。その工事現場、心と見ると出稼ぎ労働者と思われる人に目が留まる。ジャケットに革靴…、工事する服装ではないような、、、安全管理や危険予測というものが薄いと感じてしまう。。

今月の赤幕



北京市内はオリンピックに向けた赤幕、垂れ幕、幕、幕、幕だけである。これもその1つであろう。

『エチケットのある首都市民になろう

まずはみだりに痰を吐くことをやめよう』

…そう、路上での痰吐きはよく見かける。悪気はないのだろうけれど、自分の足元に突然ペッとされると…かなり不快な気持ちになる。

実は桂林、この痰吐きが多いらしい。他の地域からやって来た同期隊員に言われた時は、何だかショックだった。事実、院内の床でもペッは普通。また、ゴミ箱に直接ペッとすることが、エチケットだとされている感もある。一時は、この痰吐きが結核感染のなくなる原因ではないかと真剣に考えた。…そうそう、中国の農村地域ではまだまだ結核感染が深刻な問題なのだ。

北京奥运会 ~北京オリンピック~

正確に書くと、『北京奥林匹克运动会（べいじん あおりいんぴいくう ゆんどんほい）』。2008年8月8日午後8時8分の開会に向けて、北京市内あちらこちらで砂埃があがっている。（この時期は、黄砂と工事の砂埃でひどいというか…。）

オリンピック会場は北京の北部に位置し（地図の緑色部分）、多くの熱戦がここで繰り広げられることになる。写真は、2007年3月現在の様子。写真左はメインスタジアムとなる中国国家体育场、愛称は『鳥の巣』。（きっとこの写真は建物の後方になるのだろう…。）写真右はたくさんのクレーン。（フェンスの中も覗いて見たくて、ちょっと高いところに上って撮影♪）

バイの任期終了とともにやってくる北京オリンピック。北京に上京するたびに、北京の変化を見るのが楽しみだ。次の上京は、7月・夏季隊員総会の予定。



《 北京のリハビリ施設見学 》

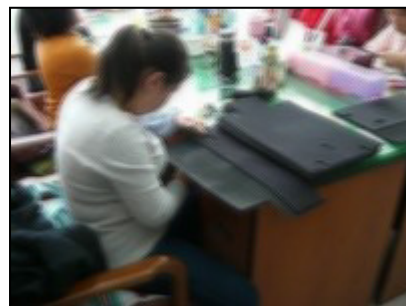
北京滞在中、市内のリハビリ施設をいくつか見学する機会があった。

→→→ 写真は『中日友好病院』のOT室。ここには10年ほど前に日本で10ヶ月の研を受けたというOTが1人いた。私が見学した時は、患者さんとその家族とOTR。ちょっと寂しいと感じたのはベイだけ？



←←← 写真は北京郊外にある小学校。この地区は少子化が順調に？進み、近隣2つの小学校が合併。空いた方の建物を自閉症児の訓練施設（宿舎つき）に改築しているという。今年7月に完成予定だとか。完成後の見学をしっかりと頼んできたベイでした♪

→→→ 写真は日本で言う通所施設といったところか。中国では『社区リハビリ機構』と呼ばれ、いま中国は、このような施設で働くスタッフの養成に力を入れていくことを障害者事業（5カ年計画）の一番目で謳っている。写真左は高齢者が集まり、レクリエーションを楽しんでいる。写真右は比較的若い人が集まりネット手芸（カバン、ティッシュケースなど）をしていた。彼女らの作業は丁寧で商品として販売されるらしい。



売上げはどうしてるんだろう??? 今さらの質問。。

写真下も同じ『社区リハビリ機構』に属する施設だが、ここでは機能訓練的なことを重点に行っているらしい。担当しているのはこの白衣の人だが、実はこの人、リハを専門に学んだ人ではないようで…。ベイが行くと、「専門家ならぜひ聞きたいことがあるんだ!!!」と。中国に来て初めてのこの感覚、ちょっと、いや、かなりうれしかった。この施設にも作業所的な部屋があり、そこでは、オリンピック・パラリンピックのマスコットの壁掛けを作っていた。



～ 中国語講座 ～

●医療・リハ用語

作業療法（ぞういえりいあおふあ）

理学療法（りいしゅえりいあおふあ）

※中国では資格制度が未整備で、この二つは区別されていない。また、理学療法は物理療法と言われる事が多い。

●日本語と意味が違う語

手紙（しょうじ）：トイレットペーパー

「てがみ」という意味を表すには「信（しん）」を用いる。

編集後記

ベイの嘆き

今回は北京の今をお届けいたしました。いかがですか？皆さんの北京のイメージってどのようなものでしょう？

北京中心部は高層ビルが建ち並び、日本とほとんど変わらない。しかし、その中には高層ビルからは想像もできないような建物が点在している。ほんの少し離れると農村地域があり、そこには医療が行き届いていない。これも北京の現実なのだ。（ベイ）